玉川大学学術研究所紀要　第22号：63（2016）
学部間共同研究報告（要旨）

他者の利他性判断に関する発達的変化の解明

――未就学児を対象にした研究――

髙岸治人，梶川祥世，岩田恵子，岡田浩之

序　論

社会的交換は他者から搾取されるリスクが常に存在する。人々は非協力者からの搾取をどのように防いでいるのだろうか。これまでの成人を対象とした研究によって，人々は初めて会った人であっても写真や動画を見ただけでその人物の利他性を検知することが出来るという結果が多く報告されている（Brown et al., 2003; Kiyonari, 2010; Verplaetse et al., 2007）。本研究では3歳から6歳の未就学児童を対象に，見知らぬ人の動画をみただけで，その人物の利他性が正しく判断できるかどうかを調べることを目的とした。また近年，社会性を支えるホルモンとして注目を集めているオキシトシンを子どもの唾液から測定することで，唾液中オキシトシンと，他者の利他性判断の関連も併せて検討することも目的とした。

方　法

参加者

3歳から6歳までの未就学児童50名（男児24名，平均月齢59.6）が実験に参加した。本研究は玉川大学倫理委員会の承認を受けて行われた。

実験の流れ

実験はまず唾液の採取を行い，その後，他者の利他性判断課題を実施した。

唾液の採取

唾液を1mlから2ml採取した。唾液からオキシトシン濃度をELISA法によって測定した。

利他性検知課題

参加者は人物（大学生）の上半身が写っている動画を見て，その人物の利他性（良い人か悪い人か）を回答した。動画は，人物が自己紹介をしている無音の映像であり，一人ずつ30秒間流れた。登場人物は36名（男性18名）であり，36名中18名（男性9名）は，別の実験において，順次囚人のジレンマゲームで非協力的な行動をとった人であり，残りの18名（男性9名）は協力的な行動をとった人であった。

結　果

分析の結果，女性ターゲットの正答率はチャンスレベルよりも有意に高い傾向が見られたが，男性ターゲットではそのような傾向は見られなかった。また正答率と年齢との間に関連は見られなかった。さらに正答率と唾液中オキシトシン濃度の関連を検討したところ，唾液中オキシトシン濃度が高い参加者ほど，女性ターゲットの正答率が低い傾向が見られた。

考　察

本研究の結果，未就学児であっても，他者の動画を見ただけでその女性ターゲットの利他性を正しく判断することができるという結果が見られた。また利他性判断の成績は子どもの年齢とは関連を示さなかった。この結果は，他者の利他性判断能力は発達するにつれて獲得していくのではなく，生得的にある程度は獲得されている能力であることを示唆している。まただ液中オキシトシン濃度が高い子どもほど利他性判断課題の成績が悪いことが明らかになった。今後はオキシトシンが利他性判断へどのようなメカニズムで影響を与えているかを検討することが望まれる。

参考文献

Brown, W. M. et al., (2003). Are there nonverbal cues to commitment? An exploratory study using the zero-acquaintance video presentation paradigm. *Evolutionary Psychology* 1.1: 147470490300100104.

Kiyonari, T. (2010). Detecting defectors when they have incentives to manipulate their impressions. *Letters on Evolutionary Behavioral Science, 1*(1), 19–22.

Verplaetse, J.et al., (2007). You can judge a book by its cover: the sequel.: A kernel of truth in predictive cheating detection. *Evolution and Human Behavior, 28* (4), 260–271.